

非辛味シシトウの品種開発

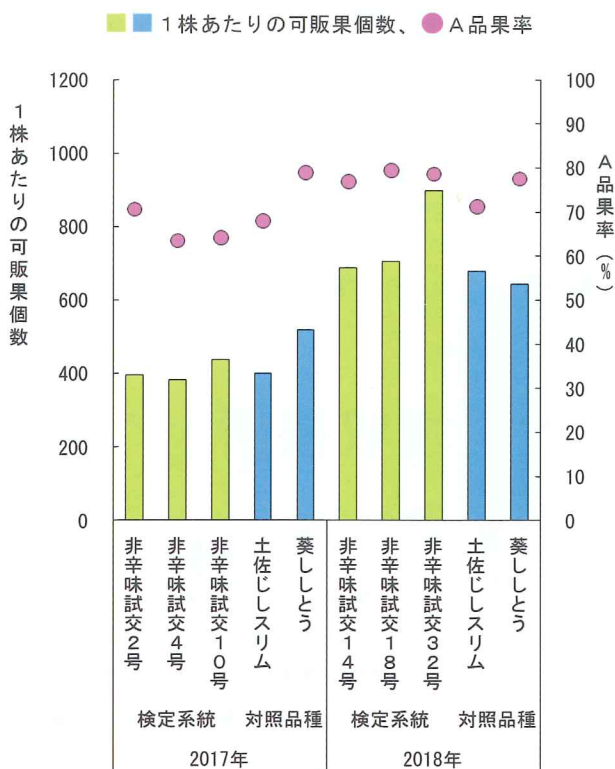


図 非辛味シシトウ試交系統の収量特性

注) 耕種概要: うね幅 180cm・株間 50cm の 2 条千鳥植え、2 本垣根仕立て、最低夜温 20℃、換気点 27℃。2017 年: 播種: 8 月 9 日、調査: 2017 年 10 月 5 日～2018 年 3 月 27 日。2018 年: 播種: 8 月 7 日、調査: 2018 年 10 月 5 日～2019 年 3 月 26 日。

通常、シシトウでは辛味が感じられないものの、時に栽培時のストレスなどにより辛い果実ができてしまうことがあります。これは、シシトウが辛味成分を作る遺伝子を持っているためです。一方、ピーマンやパプリカにはこの遺伝子がないため果実が辛くなることはありません。そこで、シシトウに辛味成分を作る性質のない遺伝資源を掛け合わせることで、どのような栽培環境でも辛味成分を作らないシシトウ品種の育成に取り組んでいます。

これまでに、シシトウの市販品種と、辛味成分を作らない遺伝資源とを掛け合わせた子孫などを蒔培養して固定系統を得まし



写真 非辛味シシトウ試交系統の果実特性

注) 撮影日: 2019 年 11 月 28 日。

表 試交系統での辛味果の発生²⁾

系統・品種	可販果		石果	
	調査個数 (個)	辛味果個数 (個)	調査個数 (個)	辛味果個数 (個)
2017年 ^{y)} 非辛味試交2号	780	0	13	0
非辛味試交4号	768	0	14	0
非辛味試交10号	865	0	3	0
市販品種A	1406	7	254	21
市販品種B	1849	67	172	75
2018年 ^{x)} 非辛味試交14号	667	0	6	0
非辛味試交18号	726	0	14	0
非辛味試交32号	453	0	13	0
市販品種A	1463	9	107	27
市販品種B	1418	29	122	55

z) 調査: 各系統は2株、対照品種は4株について官能試験で辛味を調査した。

y) 調査期間: 2017年10月5日～2018年3月27日。

x) 調査期間: 2018年10月5日～2019年3月26日。

た。そのなかから、1株あたりの果数が多く、果形が良い系統を選抜し、それらを組み合わせた38系統の収量特性を調べました。その結果、1株あたりの果数とA品率が‘土佐じしスリム’と同等以上となるF₁組み合わせが6系統見つかりました(図、写真)。また、これらの選抜6系統では、現在のところ、市販品種で見られる辛味果は発生していません(表)。

今後は、この有望と考えられる6系統について、さらに選抜を継続するとともに栽培試験を繰り返し、生育特性や果実特性、病害抵抗性を確認する予定です。

(園芸育種担当 鍋島怜和 088-863-4916)